



# 2020年 競輪公益資金による 補助事業完了報告

社会福祉法人 筑紫会 真壁授産学園  
溶岩窯パン工房Makapan 飯島正美



# 補助事業の目的

## ○背景および補助事業実施前の現状認識

真壁授産学園では平成23年4月より就労継続支援B型事業を開始し、翌24年溶岩窯パン工房Makapanを開設した。約9年が経過した現在、平均工賃は当時の約2倍強へと引き伸ばすことができた。しかし、ここ数年は横ばいの状況が続いている。

## ○取り組むべき課題

時代や地域のニーズに則した変革（サービス）が求められている。自主製品の製造・販売（販路開拓）に注力をするのが、ご利用者さまの**工賃向上**に繋がっていくことを理解しつつも、現設備・機器、勤務体系では新たな仕組みづくりへ着手し難い。また、法令遵守という観点から**HACCPの考えを取り入れた衛生管理**の実現、そして、ご利用者さまの**高齢化**も課題に挙げられる。

## ○実施の意義と期待される効果

### ①オペレーションの大幅な改編

⇒支援員がよりイキイキと働くことのできる環境づくり

ご利用者さまの更なる可能性を模索する時間の創出

### ②ご利用者さまが更に専門性の高い作業へ携わる機会の創出

### ③地域のニーズに則したサービスの提供

⇒製造量UPが見込め、様々な要望に応えること、販路拡大が可能

### ④危害要因の除去および低減させるための重要な工程管理における根拠となる仕組みづくり

⇒HACCPの考えを取り入れた衛生管理の実現

労働環境

工賃

法令遵守

# 自動分割丸目機 <DR-ROBOTS Aタイプ> の導入

## <課題>

『分割』『丸め』の作業には、技術が必要であり、これまで全て人力で主に支援員が担ってきた。

## <効果>

『分割』『丸め』の作業工程を機械化することで得られるメリットは、『作業時間の大幅な短縮』と『誰でも簡単にできる』が挙げられる。基本動作を油圧システムで行なうため、生地の傷みも少なく、安全に取り扱うことが可能である。

○作業時間の大幅な短縮

⇒出勤時間の見直し（労働時間見直し、オペレーション改編）

ご利用者さまへよりよいサービス（支援）の提供

製造量増、新たな販路開拓が可能

○誰でも簡単にできる

⇒ご利用者さまの製造に携わる機会の創出

品質の均一化





# ドウコンディショナー〈パンステージDP-3222A〉の導入

## 〈課題〉

現行のドウコンは故障の頻度が多く、複数回修理を行なっているが型が古く部品の生産が終了していることから暫定的な処置しか行なうことができない。また、庫内の温度や湿度が安定しないことから、品質の均一化が困難であり、焼成前にロスとなる商品もある。（＝修理費用、ロスで収益が圧迫）『利便性』においても、決して使いやすいとはいえず、支援員のみ操作可能。

## 〈効果〉

ドウコンディショナーを新調することで得られるメリットは、『経費削減』や『品質の均一化』、『利便性の向上』が挙げられる。

○経費削減 = 収益改善 ⇒ 工賃向上

⇒修理費用減、ロス率減

空気循環性能に優れ、運転効率増

○品質の均一化

⇒冷凍→冷蔵→予熱→ホイロのサイクル、温度・湿度の安定

○利便性の向上（見やすい、使いやすい）

⇒ご利用者さまの製造に携わる機会の創出



# 金属探知機 <MS-3147-3012-WP> の導入

## <課題>

異物混入を未然に防ぐため、非効率ではあるが全ての納品商品および販売商品の『検品』を、支援員が目視にて行っている。時間効率が非常に悪く、確実性も乏しい。また、HACCPの考えを取り入れた衛生管理の実現も課題となっている。

## <効果>

金属探知機を導入することで得られるメリットは、『作業時間の大幅な短縮』や『ご利用者さまの新たな作業の創出』、『HACCPの考えを取り入れた衛生管理の実現』が挙げられる。

### ○作業時間の大幅な短縮

⇒出勤時間の見直し（労働時間見直し、オペレーション改編）

ご利用者さまへよりよいサービス（支援）の提供

製造量増、新たな販路開拓が可能

### ○ HACCPの考えを取り入れた衛生管理の実現

⇒危害要因の除去および低減させるための重要な工程管理における根拠

となる仕組みづくりの足掛かり



# 社会情勢と当施設の現況

申請を実施させていただいた時点では勿論、令和2年の新年が明けた段階でも『新型コロナウイルス』の存在を私は知らなかった。中国・武漢での感染に関する報道は1月中旬から盛んに行われ、現地に滞在する日本人を帰国させるチャーター便が話題となっていたことを記憶している。

この時点で、コロナ禍は『対岸の火事』であり、「日本へ飛び火することはないだろう。」「施設運営に大きな影響はないだろう。」「私たちの生活が脅かされることはないだろう。」と考えていた。機器導入後の夏には東京オリンピックが開催され、大きな経済効果を期待していた。

しかし、『新型コロナウイルス』は全世界に飛び火し、現在も猛威を振るっており、当施設にも大きな影響を与えていることは言うまでもない。授産機器導入事業所『溶岩窯パン工房Makapan』は、イートインスペースも兼ね備え『地域の憩いの場』としても活用されるリテールベーカリーだが、現在イートインスペースは無期限閉鎖状態となっている。また、ご高齢の方が非常に多い地域柄、『自身の生命を守る』という意識が非常に強く、外出を控えている方が多い。以上のことから、店舗への集客は大幅減となっている。それだけではなく、近隣工場や事業所、市役所などへの外部販売も自粛している。

# 課題と今後の方向性

申請の時点では、自主製品の『パン』というツールを活用し工賃向上に繋げていくことを考えていたが、現在の社会情勢を鑑み、当施設ご利用者さまの『生命の安全』を最優先に考えた場合、『パン』の販路開拓(外部販売・委託販売・納品)交渉は難しく、パン単体での大幅な収益増は困難な状況となっている。そこで、方向転換を図り、導入させていただいた機器を有効活用し、時間の創出に努め、賞味期限の長い『製菓』のブランディングを推し進める。店売り・手土産用・ギフト用の展開を行っていくことで、大幅な収益増が見込め工賃の向上に繋がっていくと考える。

# 現時点での事業実施効果

- ① HACCPの考えを取り入れた衛生管理実現へ一歩近づいた。
- ② オペレーションの改編に伴い、職員の勤務改善および時間の創出に繋がっている。
- ③ これまで以上に、ご利用者さまが製造に携わる機会が増え、また作業の幅が広がり、笑顔が増えた。